

カトリック八尾教会ニュース



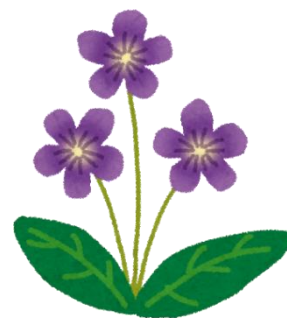
2024年3月

Tháng ba

【今月の予定】

ミサの時間

日	時間	内容
1日(金)		性虐待被害者のための祈りと償いの日
3日(日)	7:00	故フスト・セグラ神父様追悼(2023.3.5 帰天)
	10:00	典礼委員会(10時ミサ後)
10日(日)	7:00	
	10:00	
16日(土)	14:00	初聖体勉強会
	16:00	信仰講座
17日(日)	7:00	故アウグスト・バンバール神父様
	10:00	追悼(2000.3.17帰天)
	15:00	病者の為の祈りの集い(10時ミサ後)
ベトナム語のミサ		
19日(火)	-----	聖ヨセフ
24日(日)	7:00	受難の主日(枝の主日)
	10:00	
28日(木)	19:30	主の晩餐
29日(金)	19:30	主の受難 <大斎, 小斎> 聖地のための献金
30日(土)	19:00	復活徹夜祭 洗礼式
31日(日)	7:00	「主は復活された、アレルヤ!アレルヤ!」
	10:00	初聖体式



【平日のミサ】 木曜日 10:00 7日、21日、(14日、28日はお休み)

※四旬節中、ミサ後に十字架の道行きを行います。

■からし種 (テーマ): 『過越の聖なる三日間』



キリストは人間にアがないをもたらし、神に完全な栄光を帰するわざを、とりわけその過越の神秘によって成就され、ご自分の死をもってわたしたちの死を打ち砕き、復活をもってわたしたちにいのちをお与えになった。このため、主の受難と復活からなる「過越の聖なる三日間」は、全典礼暦年の頂点として輝きを放っている。したがって、一週間の中で主日が占めている最高位を、復活の祭日は典礼暦年の中で占めている。

(第2バチカン公会議『典礼憲章』より)

2024年 四旬節「愛の献金」キャンペーン

” 喜ぶ人と共に喜び、
泣く人と共に泣きなさい。” (ローマ 12:15)

四旬節キャンペーン小冊子<四旬節趣意書、2023年度
四旬節献金支援先、四旬節をよりよく過ごすために(カ
リタスジャパン担当司教メッセージ)、2024年4月-2025年
3月までのカレンダーを掲載しています>や献金袋を
配布していますので、ご利用ください。



喜ぶ人と共に喜び、
泣く人と共に泣きなさい。(ローマ12:15)

■ 小 教 区 評 議 会 が 行 わ れ ま し た。 2月4日(日) 11:30~13:00

【報告事項】

- ・(典礼委員会) : 2/14 より、四旬節に入るため、みなさんのご協力願います。
- ・(行事委員会) : フリーマーケットのアンケートの協力をお願いします。・クリスマス飾りありがとうございました。行事にリンさん、タオさんが入り、フリマの収益は青年会活動費に利用する予定。他にあれば、申し出てください。当日のゴミの分別できず、次回からできるよう検討。
- ・(子ども会) : 今年の初聖体予定者は9名。今年の夏に向け、ブロック単位での活動を検討予定。
- ・(青年会) : 子ども会と共に侍者の指導や子ども会活動の補助を検討。
- ・(社会活動委員会) : 昨年の教会内募金の報告(トルコ、シリア地震; ¥37.167-、ウクライナ ¥11.000-、能登地震 ¥61.011-他、釜ヶ崎支援 : ¥32.277-(年4回)できれば、年間4万円の支援を目指したい。)・能登半島地震支援については名古屋教区サポートセンターが開設されたため、支援金の一部をそこにもまわしたい。
- ・(広報委員会) : ホームページについて、サーバー利用更新時期(3/31)が来ているため、教区のサーバーに切り替えるか検討。→3年間の契約更新、カード決済提案、承認される。
- ・(宣教司牧委員会) : 新成人の御祝いの対象者は3名。記念品は聖書。祝福式には1名出席。
- ・(営繕管理) : エレベーターの排水工事が必要なため、費用を計上予定。
- ・(財務委員会) : 追加の支払い予定の報告があったが、来年度からは申請の段階でしっかりと精査し、予算申請してください。
- ・(かわちブロック連絡会) : 前回の待降節黙想会はブロック合同で布施教会にて行われた。当教会から20名余りの参加。指導司祭がベトナム人司祭の為、ベトナムの方の参加もあった。

【協議事項】

1. 八尾教会の予算の承認について(財務委員会)
 - ・各委員会より提出された予算より、予算表(資料)を作成し、承認される。
 - ・教会献金はミサ中にまわすようになり、収入が増えてきた。詳細は後日、信徒大会で報告予定。
 - ・各種援助金の送金にかかる振込手数料について、これからは差引送金ではなく献金全額を送金して振込手数料は教会で負担することで承認される。

2. 維持費献金袋とレターボックスについて

・教会に來られず、ボックスを使用されていない方は 2年を期限に見直していく。

3. 四旬節黙想会について (典礼委員会)

・今回の黙想会はブロック合同では考えていないと上田神父様より連絡があり、崔神父様と検討中とのこと。決まり次第、お知らせします。→2/25(日)上田神父様指導司祭として行う。

4. 復活祭について

・3/24(日)が受難の主日(枝の主日)となるため、子どものミサではなく、通常ミサとする。

<聖週間—聖木曜日3/28(木)19:30, 聖金曜日3/29(金)19:30、復活徹夜祭3/30(土)19:00>

5. 洗礼式と初聖体式について

・洗礼志願者1名。洗礼式は3/30(土)復活徹夜祭で行う予定。

・初聖体式は3/31(日)復活の主日のミサで行う予定。対象者は9名。

6. 今後のミサについて

・子どものミサでは子どもたちに献金を回してもらおう。7時のミサでも献金箱を回すようにした。

7. その他

・評議会グループラインでの緊急以外のやり取りは、23時以降はお控えください。

・2024年度八尾教会年間予定表を作成するので、各委員会より予定を広報へお知らせください。

・次回評議会: 4月21日(日)10時ミサ後 以上

兄、母、弟

崔 周永神父

苦しみは人間をどこまで成長させるのか、と最近思っている。

去年11月末、信じられない電話を韓国の従弟から受けた。兄が死んだと携帯を通して従弟は

申し訳なさそうに言っていた。何?もう一度言ってみて。兄が死んだと?仕事の段取りをしてから

翌々日実家に帰った。飛行機に、バスに、電車に乗って到着した葬儀場に兄がいた。納棺に従弟

達と立ち会った。韓国は日本と違って棺桶の蓋を一度したらそれが最後、二度と蓋を開けることは

あり得ない。スイ(壽衣)という死者へ着せる衣服で包まれた兄は勿論冷たかった。そして、全然

馴染みのない感じの死者の兄に戸惑った。蓋が閉められる前に兄に泣きながらハグをした。最初で

最後のハグだった。翌日出棺。斎場で煙と共に粉に化した兄が、親族墓地に向かうバスの中で

私の膝を温めてくれた。イブキの壺に入った兄によるあの熱、最初で最後に感じた兄の暖かさ。

埋葬が終わり、母と実家に戻った。食事をした。兄が食べるはずの炊き置きのご飯を頬張った。母

も一緒に食べた。母の前では努めて落ち着きを演じていたが、兄の部屋で寝掛けた時に涙がポロ

ポロと溢れてきた。兄がずっと見ていただろう天井を、兄がいつも横になっていたであろう所に、

弟が同じく天井を見上げながら、今はもう存在しない兄のため泣いていた。部屋は、当日兄が

出勤していく時のそのままだった。部屋にあるゴミも、埃さえも愛おしく感じられ、それが余計

に悲しかった。もう兄は死んだのだ。二度と帰って来れない。

翌朝、区役所に母と一緒にいき、兄の銀行口座を含めた財産関係を整理するために必要な書類を

はっこう 発行してもらった。ありがた 有難いことに、まどぐち こうむいん 窓口の公務員がたいへんせつ 大変親切だった。あに くるま しょぶん 兄の車も処分すべきだったので、ちゅうしゃじょう と 駐車場に止めてある くるま から 荷物をおろした。くるま せいび しゅみ 車の整備が趣味だったあに くるま からかなり の工具が出てきた。しゅじん な 主人を無くした くるま、あに ひごろ かんり ゆ とど 兄の日頃の管理が行き届いているあの くるま も 売るべきだ。はは い あに にもつ おお すく ほう あに おとうと はは い 母は言った。兄の荷物が多いと。いや、少ない方だよ、と 兄の 弟 は母に言った。56年の生涯で のこ 残したのが くるま1だい じむしつ 事務室にある じむようひん つくえ いす 机・椅子、それに へや 部屋にある ほん・CD・ぬいぐるみ が全部だなんて ぜんぶ すく ひ ごご くるま 少なすぎる。その日の午後、 くるま のカギのバッテリーが切れていた ので、市内の方 に向かっ て さんぽ ある 散歩がてら 歩いた。おとうと かよ 弟 が通っていた ちゅうがっこう こうこう 中学校や高校、しょうがくせい 小学生だった とき す 時に 住んでいた 町 など、かれ そだ ところどころ おも 彼が育った 所々 が 思っていたより せま はんけい せま 狭い半径に 群がっているのが 新たな発見だった。 とうじ 当時は あんなに 広いと 感じていたのに、いま てのひら はい 今は 掌 に ぴったり 入り そうな 狭さで 感じ 取れた。バッテリー 購入のための 出かけは まるで 幼児期や 青少年期を 二度目 生きた ような 気がした。愛おしかった。あに い 兄が 生きていた とき、あに い 兄が 生きていた とき まち 町の 時が！

その夜、おとうと 弟 の 帰り 際に 市場で 買って きた ミョントで 母は 美味しい 汁を 作って くれた。あに い 兄が 生きて いたら 兄が 食べるはずの 汁だった。 変わりのない ミョント汁の 味に、ようやく 実家に 帰って きた 気がした。しかし、また 出発 しなければならない。 にほん 日本に、おおさか 大阪に。

しんきんこうそく 心筋梗塞で じむしつ 事務室の 前 で 倒れているのを さいしょ 最初に 見つけたのが 母だった。 その 事実 に 胸が 痛んで くる。自分 が 生んだ 子、その 死骸を 抱きしめて 母は、 その 寒い 朝、どれほど 悲しかった だろう。その 悲しみが 癒える ことがある だろうか。

わ しゅ 我が 主よ、わたしの ぜんぶ 全部よ！

